

新入生の皆様へ

情報工学研究院長（学府長・学部長） 梶原 誠司



新入生およびご父兄の皆様、ご入学おめでとうございます。今年も情報工学部と大学院情報工学府を合わせて600名を超える新入生の皆さんを迎えることができたことを、教職員を代表して心よりお喜び申し上げます。

国際水準を満たす教育

情報工学部は情報技術の基礎およびその様々な学問分野への応用について教育・研究するため、1986年に全国で初めての「情報工学部」として設置され、新しい情報技術の研究開発、そして情報化社会の発展を担う人材の育成を継続して行ってきました。情報工学部の5学科が提供する教育プログラムは、2006年

以来いずれも日本技術者教育認定機構（略してJABEEと呼ばれますが）による認定を受けています。JABEEに認定された教育プログラムは国際水準を満たしたものと見なされます。全国の大学・高専でJABEE認定を受けている学科等は数多くありますが、学部を構成するすべての学科が認定されたのは本学部が日本で初めてであり、このことは本学部全体が世界に通用する確かな教育を継続的な改善を伴いながら実践している証でもあります。

新しい情報技術がもたらす

社会変革

昨年で学部設立からちょうど30年経過しましたが、この間に社会は大きく変わりました。30年前の学部設立当時は、コンピュータを使いこなすことや高性能なコンピュータを作ること、教育研究の焦点があたっていました。その後、特にインターネットの急速な普及により、情報のやり

とりのスピードが格段に速くなり、世の中のグローバル化が急速に進展しました。以前とは比較にならないくらい大量の情報が時々刻々生み出されている現在、それを処理し、活用するための高度な情報処理技術の重要性はますます高まっています。

最近では、人工知能、ビッグデータ、IoT等、情報工学が扱う技術がマスコミを賑わし、世間の大きな脚光を浴びています。単にコンピュータを道具として使いこなすだけでなく、コンピュータで扱う情報を使って新しい価値を見いだすことの重要性が高まっています。自動車の自動運転や各種ロボットなどへの情報技術の応用は、これから5年後、10年後の私たちの生活を目に見える形でますます便利にしていくでしょう。

グローバル社会への対応

世の中の変化に伴い、学生に求められる素養も大きく変わってきています。情報工学部の学生が卒業後に即戦力として社会で活躍できるように、様々な取り組みを行っています。たとえば、卒業生が活躍する主要な産業分野ではグローバル化が急速に進んでおり、海外で仕事する、または、

外国人と一緒に仕事する機会が増加しています。学生にはしっかりとした基礎学力や高い専門性に加え、異文化理解の素養や実践的な英語力を伴った国際感覚も求められます。情報工学部では2008年に国際情報科学者養成プログラム（略称 IIFプログラム）を立ち上げ、海外の大学への留学体験を含む語学教育や異文化理解の素養を高めるための取り組みを、1学年最大25名の少人数で行っています。大学全体でもGE（グローバルエンジニア）養成コースが設置され、大学院博士前期課程までを見据えた6年一貫教育がスタートしています。これらの教育を充実させるために、海外研修・海外留学の制度を充実させてきており、最近では、情報工学部・大学院情報工学府から毎年100名以上の学生が海外に派遣されています。また、学内においても留学生や海外大学の学生との協働作業等で国際感覚を磨く機会も様々な用意してあります。

新入生の皆さんには、これまで未体験だったことに積極的に挑戦して、最先端の情報技術により世の中を変える原動力になることを期待しています。